

捕獲者としての基本事項

一般財団法人自然環境研究センター
(認定鳥獣捕獲等事業者東京都第002号)

主席研究員 青木 豊

環境省 鳥獣保護管理プランナー
環境省 鳥獣保護管理捕獲コーディネーター
農林水産省 農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー
群馬県公安委員会指定射撃指導員

本講義の目標と内容

• 目標

- 鳥獣の捕獲に従事する際の基本的な事項を知ってもらう

• 内容

- 捕獲者になるまでの流れ
- 捕獲方法の紹介（わな猟・銃猟）
- 狩猟と許可捕獲・指定管理鳥獣捕獲等事業等の違い
- 狩猟者・捕獲者としての心構え
- 基本的な知識

捕獲者になるまでの流れ

猟銃・空気銃所持許可証
の取得



資格

狩猟免許の取得
(わな猟・第一種銃猟)



組織

猟友会、捕獲実施隊、駆除隊等
への加入

あるいは

個人

認定鳥獣捕獲等事業者



捕獲方法の紹介

網猟免許	わな猟免許	第一種銃猟免許	第二種銃猟免許
網を使用する猟法	わなを使用する猟法	装薬銃を使用する猟法	空気銃を使用する猟法
むそう網 はり網 つき網 なげ網	くくりわな はこわな 囲いわな はこおとし	散弾銃 特定ライフル銃 ライフル銃	空気銃



居住する地域の状況に応じた方法を選択

捕獲方法の紹介(わな猟)

わなによる捕獲の特徴

- ・ わな数を増やすことで捕獲機会を増やせる
- ・ 昼夜を問わず捕獲できる
- ・ 銃器より技術獲得が容易である
- ・ 止め刺し時の事故が多い

わなによる捕獲の種類

- ・ 獣道に設置して捕獲する方法 (くくりわな)
- ・ 餌を使って誘引して捕獲する方法 (すべてのわな)

捕獲方法の紹介(わな猟)

くくりわな

- 獣がわなに気づかないように設置する技術が必要
- 対象鳥獣が確実に足を置く場所の見極めが必要
- 毎日の見回りを確実に実施することが必要
 - ✓ 事故の防止
 - ✓ 迅速な錯誤捕獲対応

捕獲方法の紹介(わな猟)

くくりわな



捕獲方法の紹介(わな猟)

くくりわな

- ・ 対象鳥獣の体の一部をくくって捕獲
- ・ 事故や逃亡の危険性が比較的高い



捕獲方法の紹介(わな猟)

はこわな

- ・わな対象鳥獣を誘引し、出入り口を閉じて捕獲
- ・くくりわなと比較すると捕獲後の安全性は高い



クマ用の脱出口

捕獲方法の紹介(わな猟)

囲いわな

- ・ わな対象鳥獣を誘引し、出入り口を閉じて捕獲
- ・ くくりわなと比較すると捕獲後の安全性は高い



捕獲方法の紹介(わな猟)

はこわな・罠いわな

- ・ 容易に移設できないので、設置する場所の選択が重要
- ・ 警戒心を低下させるための馴致期間が必要
- ・ 嗜好性の高い誘引餌を地域や季節に応じて選択する
- ・ 毎日の見回りを確実に実施することが必要
 - ✓ 事故の防止
 - ✓ 錯誤捕獲時の迅速な対応

捕獲方法の紹介(銃猟)

銃による捕獲の特徴

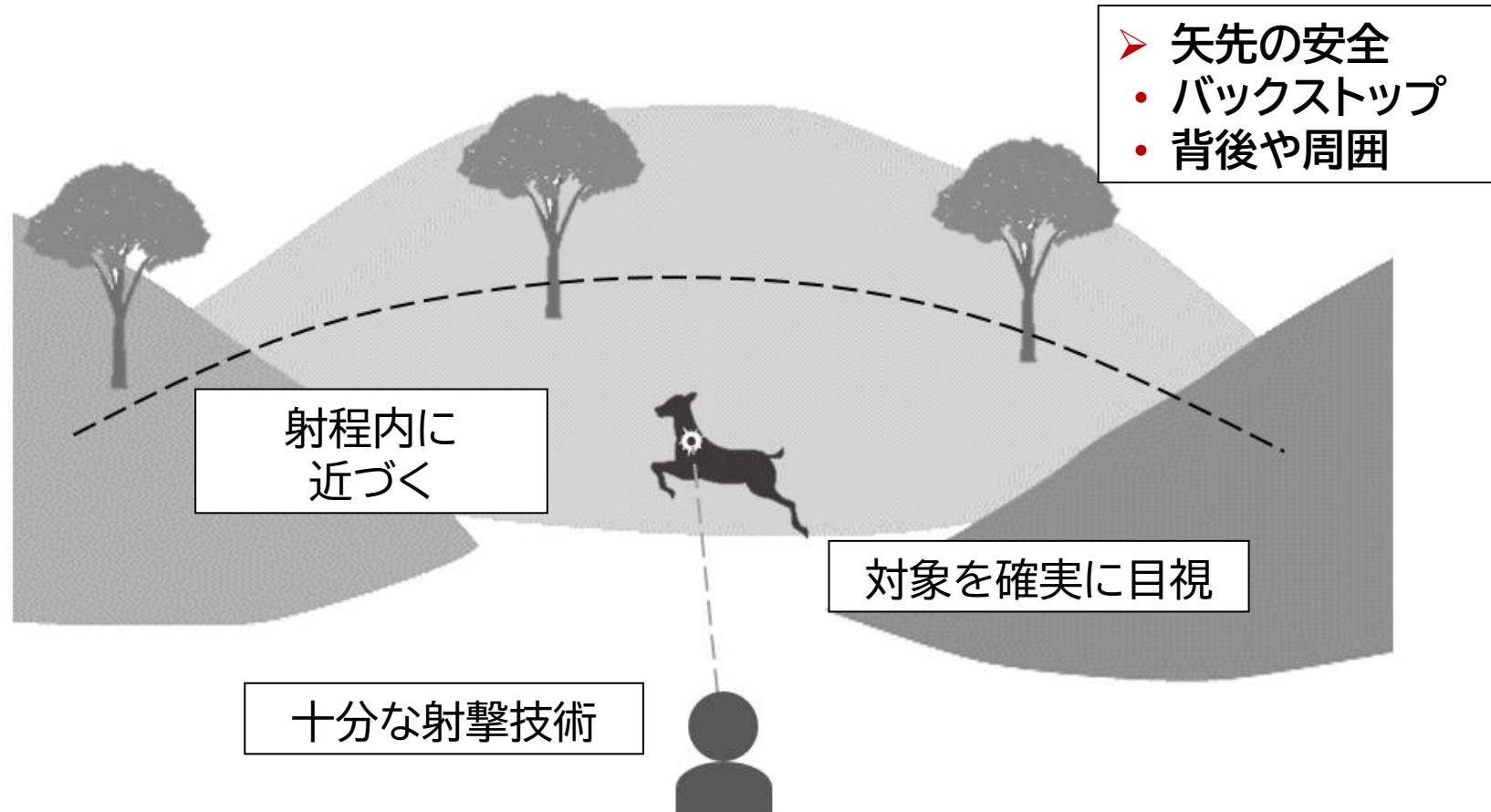
- ・ 対象鳥獣を確実に目視
- ・ 銃の射程内に獲物を近づけさせる
- ・ 矢先の安全が確保されている
- ・ 射撃技術がある



対象鳥獣に応じた銃種と装弾の選択

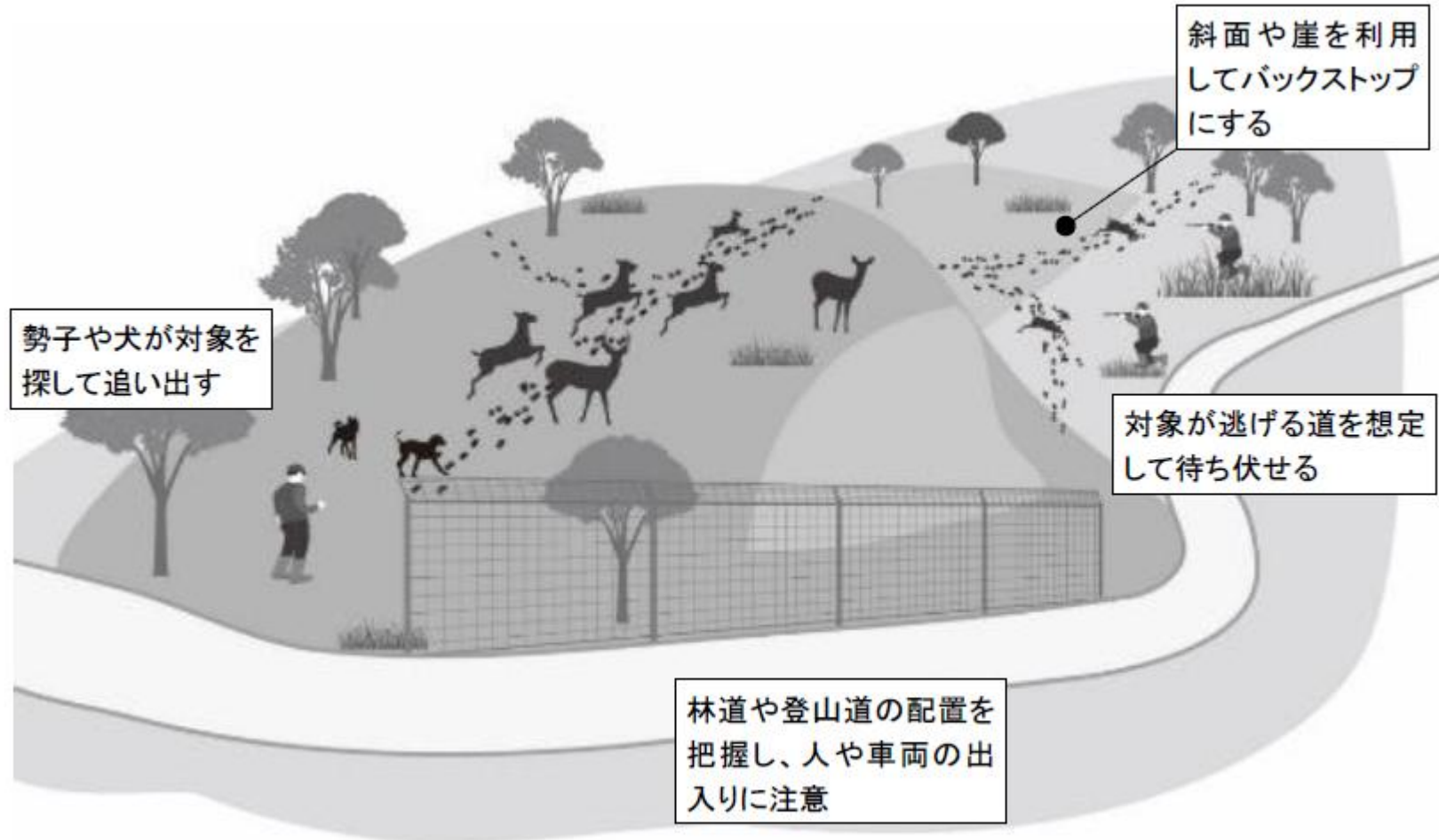
捕獲方法の紹介(銃猟)

銃による捕獲が可能になる条件



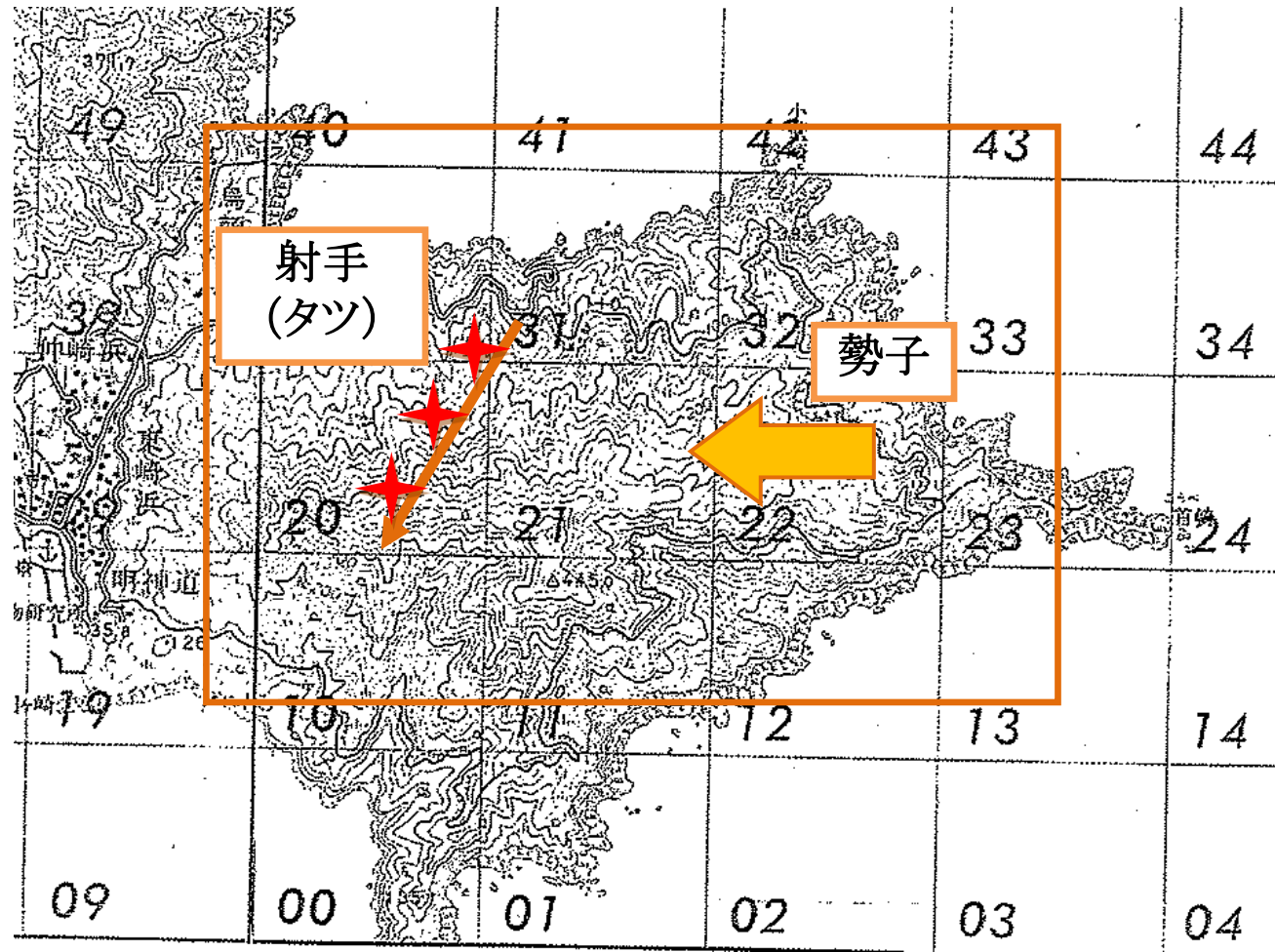
捕獲方法の紹介(銃猟)

巻き狩り



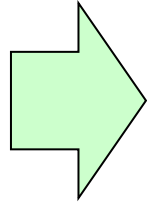
捕獲方法の紹介

獲物を追い出す役割を担う勢子と獲物を射止める役割を担う射手（タツ）とで挟み撃ちにする。

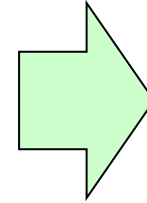


捕獲方法の紹介

① 打ち合わせして



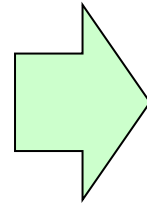
② 山に入り



③ 持ち場に展開して



④ 安全に発砲



⑤ 捕獲！



捕獲方法の紹介(銃猟)

流し猟など



狩猟と許可捕獲・指定管理鳥獣捕獲等事業等の違い

捕獲の分類	狩猟 (登録狩猟) 法第11条	許可捕獲 法第9条			指定管理鳥獣 捕獲等事業 法第14条の2	緊急銃猟 法第34条の2
		学術研究、鳥獣の 保護、その他	鳥獣の管理 (被害の防止)	鳥獣の管理 (個体数調整)		
目的		学術研究、鳥獣の 保護、その他	農林業被害等 の防止	生息数または生息範囲の抑制		人の生命又は身体に 対する危害の防止
対象鳥獣	狩猟鳥獣(46種) ※卵、ひなを除く	鳥獣及び卵		第二種 特定鳥獣	指定管理鳥獣 (ニホンジカ・イノシシ・ク マ類)	危険鳥獣 (イノシシ、クマ類)
捕獲方法	法定猟法	法定猟法以外も可 (危険猟法等については制限あり)				銃器
実施時期	狩猟期間	許可された期間 (通年可能)			事業実施期間	危害防止の措置を 緊急に講ずる必要 があるとき
実施区域	鳥獣保護区や休 猟区等の狩猟禁 止の区域以外	許可された区域			事業実施区域	人の日常生活圏
実施主体	狩猟者	許可申請者	市町村等	都道府県等	都道府県 国の機関	市町村長
捕獲実施者		許可された者			認定鳥獣捕獲等 事業者等	市町村の職員又は 市町村長から委託を 受けた者
必要な手続き	狩猟免許の取得 狩猟者登録	許可の取得			事業の受託	市町村長からの指示 又は委託

狩猟者として

狩猟の醍醐味

- 野生動物との知恵比べ
- トロフィーハンティング
（大物を仕留める）達成感
- 「命」をいただく尊さ
- 自然との一体感
- 仲間との絆
- 捕獲技術の熟達

など



捕獲者として

※資格があれば狩猟者にはなれる

さらに経験と条件を満たすことで捕獲従事者になれる

	狩猟者	捕獲者
捕獲の意義	釣りと同じ趣味の捕獲	目的に応じた捕獲
必要な心構え	法令遵守 安全第一	法令遵守 安全第一 確実な成果

- ✓ 人員への被害は絶対に出してはならない
- ✓ 発砲の最終判断は捕獲者に委ねられている
- ✓ 発砲した弾丸の行方にも責任が生じる

クマを目の前に
して本当に対応
できるか？



緊急銃猟における捕獲者(環境省ガイドラインから)

緊急銃猟を実施する者の要件

必須条件

- ・ 第一種銃猟免許を受けた者
- ・ 一年間に二回以上の銃猟又は射撃の練習をしていること
- ・ 過去3年以内に、緊急銃猟の実施のために使用しようとする銃器と同種の銃器を使用して、クマ、イノシシ又はニホンジカの捕獲を行った経験を有する者

夜間（日出前及び日没後）に実施する場合の追加要件（屋外において装薬銃又は空気銃で実施する場合に限る）

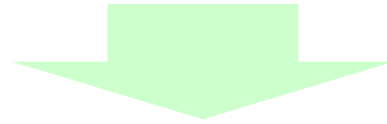
- ・ 射撃場における五回以上の射撃において、次に掲げるいずれかの範囲（ライフル銃（腔旋を有する部分が銃腔の長さの半分を超えないもの（特定ライフル銃）を除く。）にあっては次のイに掲げる範囲）に全て命中させる技能又はこれと同等の技能を有する者であること。
なお、射撃線から標的までの距離は五十メートルとし、射撃姿勢（銃身を架台、土のう等に依託する場合を含む。）は問わない。
イ 標的の中心から二・五センチメートル
ロ 標的の中心から五・〇センチメートル
- ・ 夜間銃猟安全管理講習として、夜間銃猟をする際の安全の確保に関する知識等について、五時間以上の講習を修了している者であること

麻酔銃猟を実施する者の必須条件

- ・ 過去3年以内に、緊急銃猟の実施のために使用しようとする銃器と同種の銃器を使用して、クマ、イノシシ又はニホンジカの捕獲を行った経験を有する者


基本的な知識

銃砲所持許可と第一種銃猟免許を取得しただけでは・・・。
(ペーパーハンター)








- **どんな知識が必要か** → 銃及び装弾の性能と特性。対象獣の生態。
- **どの程度の技能が必要か** → 銃刀法上の技能講習には合格できる。
- **どの程度の経験が必要か** → 対象獣の豊富な捕獲経験を有する。

生息密度と各種捕獲方法との関係

生息密度	銃	くくりわな	はこわな	囲いわな ドロップネット
<p>高い</p>  <p>低い</p>	<p>△</p> <p>追い散らすことで被害が拡大する懸念</p>	<p>◎</p> <p>スレさせない工夫が重要</p>	<p>◎</p> <p>餌付けでもあるので確実に捕獲することが重要</p>	<p>○</p> <p>餌付けでもあるので確実に捕獲することが重要</p>
	<p>○</p> <p>確実に命中させることが大事</p>	<p>○</p> <p>はこわなや囲いわなよりは有効</p>	<p>○</p> <p>経済性の問題がある</p>	<p>△</p> <p>移動させることが困難</p>
	<p>◎</p> <p>遊撃性を発揮させることが重要</p>	<p>×</p> <p>待つ捕獲から積極的に獲りにいく捕獲が重要</p>	<p>×</p> <p>周囲に餌が豊富な場合には捕獲効率は低い</p>	<p>×</p> <p>わざわざ誘き寄せるとは避ける</p>

銃の種類	特徴	画像
ライフル銃	<p><u>銃身の内部にライフリングと呼ばれる螺旋状の溝が刻まれた銃器</u> この溝が弾丸を回転させることで、長距離でも弾道を安定させ、高い命中精度を実現 所持許可を受けるには、散弾銃を継続して10年所持していることが必要</p>	
特定ライフル銃	<p><u>銃身の一部にのみライフリング（螺旋状の溝）が刻まれた銃</u> これまで「ライフル銃以外の猟銃」として扱われていたが、改正法により「ライフル銃」の 카테고リーに含まれることになった</p>	
散弾銃	<p><u>ライフル銃と異なり、銃身の内部に溝（ライフリング）が刻まれていない滑腔銃身（スムーズボア）を持つ銃器</u> 多数の小さな粒状の弾丸（散弾）や、大型の一発弾（スラッグ弾）を発射することができる</p>	
空気銃	<p><u>火薬ではなく、空気や炭酸ガスなどの圧縮された気体の圧力で弾丸を発射する銃の総称</u> 火薬の燃焼を利用するライフル銃や散弾銃とは根本的に仕組みが異なる</p>	
麻酔銃	<p><u>麻酔薬の入った注射筒を、圧縮空気やガス圧で発射する銃</u> 野生動物の保護や捕獲、動物園での動物管理などに用いられ、殺傷を目的とするライフル銃などとは根本的に異なる</p>	

弾丸の種類	特徴	画像
ライフル弾	<p>「ライフル弾」という言葉は、一般的にはライフル銃で発射される弾薬を指すが、厳密には弾丸全体ではなく、その先端の「弾頭」部分を意味する 火薬の力で発射可能な状態になっている、弾頭、薬莢、発射薬、雷管が一体となったものを実包（カートリッジ）と呼ぶ</p>	
スラッグ弾	<p>散弾銃で発射される単一の大きな弾頭のこと 通常の散弾が多数の小さな粒を発射するのに対し、スラッグ弾は1発で大きな標的を狙うことを目的としている 主に、シカ、イノシシ、クマといった大型獣の狩猟に使われる</p>	
サボット弾	<p>散弾銃で使われるスラッグ弾（単発弾）の一種 銃口よりも小さな弾頭を「サボット（装弾筒）」と呼ばれるプラスチック製のカバーで包んだ特殊な構造の弾薬</p>	
空気銃弾	<p>空気銃弾はペレット（pellet）とも呼ばれ、空気銃で発射される弾丸の総称 火薬を使うライフル弾とは異なり、主に鉛などの柔らかい金属でできており、圧縮空気やガス圧で発射される ペレットの多くは、前方後円墳のような独特な形をしているが、この形状は「ディアボロ（Diabolo）型」と呼ばれ、バドミントンのシャトルのように、空力的に安定して飛ぶように工夫されている</p>	
麻酔銃投薬器	<p>麻酔銃用の投薬器（ダート）は、麻酔薬を動物の体内に注入するための、注射針が付いた特殊な矢 圧縮空気やガス圧で発射され、動物に命中すると薬液が自動的に注入される仕組みになっている</p>	

銃猟における安全確保

弾丸の最大到達距離と有効射程

口径	最大到達距離	有効射程
20番スラッグ	約700m	約50m
12番スラッグ	約700m	約50m
12番サボット	約1,000m	約150m
.308口径（ライフル弾）	約4,000m	約300m

※**最大到達距離**: 弾丸が到達する物理的な最大距離。

※**有効射程**: 標的に正確に命中させ、十分な威力を発揮できる距離。

捕獲に必要な弾丸のエネルギー量

対象獣	最低限必要なエネルギー量	中間値	このほうが安全と言われる値
シカ、イノシシ	900ft.lbs	1,200ft.lbs	1,500ft.lbs
エゾシカ、ツキノワグマ	1,500ft.lbs	2,000ft.lbs	2,500ft.lbs
ヒグマ	<u>2,100ft.lbs</u>	2,800ft.lbs	<u>3,300ft.lbs</u>

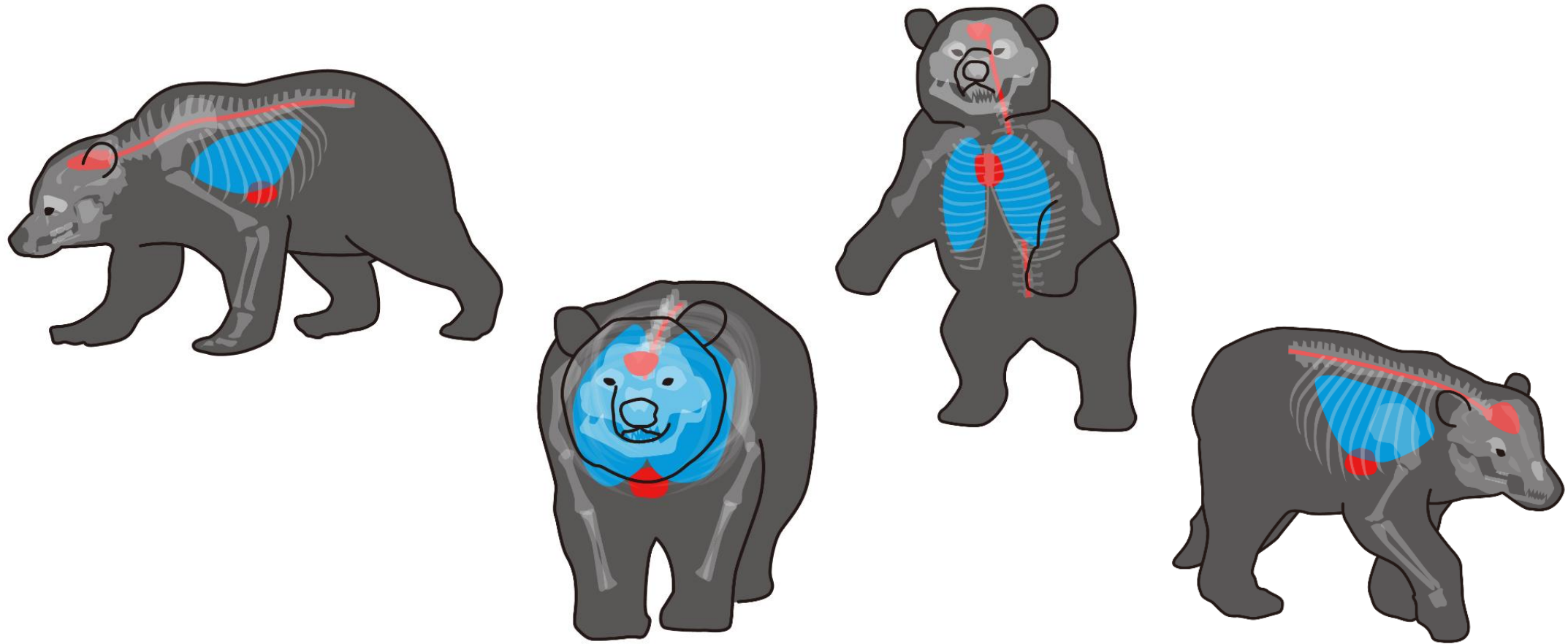
口径	弾頭重量	初速	射程	エネルギー量
20番スラッグ	275gr	1,700fps	28m	1,530ft.lbs
12番スラッグ	300gr	1,900fps	46m	1,945ft.lbs
12番サボット	385gr	1,850fps	46m	2,222ft.lbs
.308口径（ライフル弾）	130gr	3,285fps	100m	<u>2,534ft.lbs</u>

クマの体勢と息所

- ・ 頭部（脳）や胸部（肺や心臓）を狙う
- ・ 頭部の側面を撃つようにするのが効果的
- ・ 胸部を狙い、肩甲骨を絡めて撃つと良い（貫通防止）
- ・ 首の付け根あたりを狙う際は、外れる可能性があることに留意

クマの体勢と息所

半矢（獲物に命中しても致命傷には至らず、逃げられてしまう状態）個体は、危険です。



※青色：肺、赤色：心臓（図は緊急銃猟ガイドラインより抜粋）

捕獲者への道のり

- 捕獲者となるために学ぶことは多い。
- 射撃練習や狩猟での捕獲経験を重ねる必要がある。
- 誰もが捕獲者になれる訳ではない。

• **私がやらずに誰がやるのか**